

海の事故情報（七管区） 【速報値】(7月11日～7月18日)

令和4年7月22日

船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	7月11日(月)	福岡県	プレジャーボート	運航不能
	7月11日(月)	福岡県	貨物船	浸水
	7月11日(月)	長崎県	漁船	運航不能
	7月11日(月)	福岡県	貨物船	単独衝突
	7月13日(水)	大分県	プレジャーボート	運航不能
	7月17日(日)	佐賀県	プレジャーボート	運航不能
7月18日(月)	長崎県	プレジャーボート	その他(船位喪失)	

人の事故	発生日	発生県	事故区分	事故内容
	7月11日(月)	福岡県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	病気
	7月16日(土)	長崎県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	負傷
7月16日(土)	福岡県	マリレに伴う海浜事故	病気	

点火プラグ劣化による 海難発生！！

【問合せ先】
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 古場
安全対策調整官 川部
TEL: 093-321-2931 (内線2640)

【事事故例】

令和4年7月13日10:00頃、船長は単身でプレジャーボートに乗船のうえ、久しぶりに機関を起動し定係地から出港、途中、増速しようとしたところ、主機関の回転数が上がらず、異状を感じたため、同日10:30頃、一旦、定係地に戻り、着岸しようと主機関のクラッチレバーを中立にしたところ、突然機関が停止し、再度エンジンの起動を試みるも起動しないため、海上保安庁に救助要請を行ったもの。その後、同船は、風潮流の影響によりたまたま岸壁に寄せられたことから、自力で係留したもの。



海難船舶の状況

後日、業者により、故障原因の調査等したところ、**点火プラグの劣化**が原因とされ、点火プラグを交換し、復旧した。

●点火プラグ異状時の症状

点火プラグはエンジン内でガソリンと空気を混合気に点火、爆発させることで動力を得る点火装置です。以下の症状が起きた場合、点火プラグの不調が一因となっている可能性があります。

- ・セルモータは回るが、エンジンがかからない
- ・燃料があるのにエンジンが止まる
- ・回転数が上がらない、不安定
- ・燃料の燃費が悪い



●点火プラグ不調の原因と対処法

・カーボン(煤)の付着に注意

長時間、低速で運転したり、アイドリング状態にしたりすると、電極部にカーボンが付着していきます。
真鍮ブラシをかけるだけでもきれいになります。



・燃料油の付着に注意

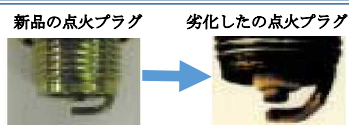
エンジンの始動時に濃い目のガス燃料(気化した燃料油)が送られます。この時、すぐにエンジンを切ってしまうと送られてきたガス燃料は燃焼しきれずに液体に戻って、プラグを濡らしてしまいます。

点検プラグをきれいに拭き取ったり、干したりしましょう。



・消耗・摩耗に注意

点火プラグは消耗品です。交換時期の目安は、おおよそ1年です。また、摩耗が激しい場合は1年経ってなくても交換しましょう。



劣化した点火プラグを使い続けると、良好な火花を発生できなくなり、燃費の低下やエンジンの始動不良を起こす原因となります。定期的を確認し、汚損、摩耗等あれば、

取り扱い説明書に従い、専用工具を使用して取り外し、早めに清掃、または、交換をしましょう。